

## マンション紛争現場で、とんでもない事件が

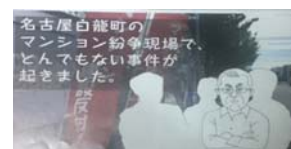
写真上は「景住ネット NEWS」12月9日発行の最新14号の表紙。景住ネットとは、景観と住環境を考える全国ネットワーク。私も参加した10月22日の「まちの問題フォーラム in 名古屋」、これまでもレポートしてきた名古屋市瑞穂区下坂・白龍町のマンション反対運動が特集されている。



表題のとんでもない事件について生々しく伝えている。この事件は住民無視の15階建てマンション建設反対運動の中心的メンバーを不当に逮捕・拘留し、住民運動を分断するもので、裁判の経過など注視していきたい。まずは、景住ネットのレポートを紹介しておく。



ケガをした事実もないまま、住民の一人が現場監督の通報によって傷害容疑で逮捕・拘束されるという事件が起きました。今までのマンション紛争ではほとんど前例のない事件です。事件当日、住民代表のOさんが腕組みをして抗議をしていたところ、その腕に現場監督が手を出したため、Oさんは反射的にその手を払いのけました。すると、現場監督はよろけたそうです。しかし、ケガをするような状態とは到底思えないよろけ方だった。



その後、現場監督が警察に通報、パトカーが5台も来て、住民の目の前で代表のOさんは手錠をかけられ現行犯逮捕されてしまったのです。そしてなんとそのまま2週間も留置。自宅と自営のお店を、家宅捜索までされています。一体、何を隠すというのでしょうか。そして、釈放される直前、傷害容疑が暴行容疑に変更され、信じがたいことに暴行罪で起訴(公判請求)されてしまいました。暴行容疑とは一般に傷害未遂ですから、実際にはケガをしていないということなのに傷害と決めつけて、2週間も取り調べを続けられたのです。本人はもちろんやっていないので、容疑は認めませんでした。いまままで、マンション紛争で住民が刑事起訴された例は、ほとんど聞いたことがありません。

事業者の窓口となる現場監督が、住民に現場の代表として理解をもとめるのではなく頻繁に警察に通報していました。今回の事件は、決して他人事ではなく人権に関わる大きな問題ですが、同時に都市問題の深刻さが現れた事件でもあります。

この問題の行方を私たちはしっかりと見守り、Oさんの容疑が晴らされるようサポートしたいと思います。(2016年12月15日)